

東京江東ロータリークラブ

2024～2025年度 テーマ

ロータリーのマジック

RI 会長 ステファニー A. アーチック
地区ガバナー 石川 彌八郎

ROTARY PRIDE

～再発見・新発見～
クラブ会長 大澤 栄一

今日の卓話

次回例会案内

No. **5**

第2911例会
2024年8月20日号

深川学童少年野球 表彰式

第1回クラブフォーラム クラブ奉仕委員会

E-mail : koto.re@sweet.ocn.ne.jp http://www.koto-rotary.jp

例会報告

8/6 会員数 21 名中 13 名

出席率 65.00%

【訂正出席率】

7/16 訂正出席率 なし



会長・幹事報告



- 13日(火) 休会(お盆)
- 20日(火) 例会【卓話】深川少年野球表彰式 青少年奉仕委員会【ホテルイースト21東京】
- 22日(木) 東京向島 RC 創立 55 周年記念例会【レバント東京】大澤会長、堀幹事、伊藤三千男会員、鈴木会員、青木会員、小嶋会員、小野会員
- 23日(金) 一般社団法人比国育英会バギオ基金 第16期第1回理事会 鈴木会員
- 27日(火) 例会【卓話】第1回クラブフォーラム クラブ奉仕委員会



<委員会報告・その他>

次の例会は、令和6年8月27日(火) お昼通常例会となります。
※欠席される方は、例会前日の12時までに、事務局までお知らせください。

【配布物】週報 No.5、益財団法人ロータリー日本財団より確定申告用寄付金領収書

【回覧】・たんぼぼ通信 No169・AnnBee会報 7月号・保谷ロータリークラブ 50 周年創立記念誌

ニコニコボックス



大澤会長：田所さん、本日は色々教えてください！

堀幹事：田所様、今日はよろしくお願いします。

菅澤君：今日もお世話になります。

青木君：奥様誕生日ありがとうございます。

小嶋君：田所さん、卓話楽しみにしております。

小野君：在籍 10 年目になりました。引き続きよろしくお願い致します。

末次君：田所様卓話楽しみにしています！

河西君：田所さん、卓話宜しくお願いします。

大島君：今日は、家庭集会です。関口さんがリーダーです。参加します、メンバーの方忘れないで下さい。

熊川君：本日もよろしくお願いします。

大屋君：歴史的株価暴落で、めまいを覚えております。本日田所先生よろしくお願いします。

野村君：田所様、本日は宜しくお願ひ致します。赤ちゃんのお世話を2日間して、本当に大変でした…

合計 53,000 円
累計 231,000 円

事務局は午前10時から午後16時まで、囲碁や将棋・談話室として利用できます。掲示板も活用してください

●例会場 / 東京都江東区東陽 6-3-3 ホテルイースト21東京内 TEL : 03(5683)5683 ●例会日 / 毎週火曜日12時30分～13時30分
●事務局 / 東京都江東区東陽 6-3-3 ホテルイースト21東京内 TEL : 03(5632)3777 FAX : 03(5632)3737

Common Disease “てんかん”

公益社団法人
日本てんかん協会（波の会）
田所 裕二 様



■てんかんは脳神経の病気です

Common Disease（コモンディジーズ）とは、ありふれた病気です。てんかんは特別な病気ではなく、人類の歴史とともに身近にある病気です。

脳には、微弱な電気が流れていて規則正しいリズムで活動しています。この活動が何かの原因で乱れ、一時的に大量の電気が流れる症状がてんかん発作です。

てんかんは、このてんかん発作を繰り返す病気の総称です。誰にでも、てんかん発作が表れます。どの年齢でも、発症することがあります。脳のどこでおきたかで、表れる症状が異なります。意識を失いバタンと倒れるものから、夢遊病のように歩いたり、腕がピクンとしたり、一瞬ボーッとするだけのものもあります。歴史上の記録や、“泡を吹いて倒れる”の由来は、「大発作」と呼ばれる特に症状の激しい発作です。実は、この発作は少数派で、周囲から気付かれない症状が大半です。

国内でも、100人に一人程度で100万人の患者さんが推定されます。乳幼児から10代での発症が多く、高齢化の現代65歳以上の人の発症も増加中。

皆さんの身近にも、てんかん発作がいつおきるか不安を抱える人がいます。その人が、「私にはこういう症状があってこう対処してほしい」と、安心して言える環境を整えたいですね。てんかんは、「明日はわが身」ですから。

■適切な医療により社会参加ができます

てんかんは、主に薬で治療します。30種類にも及ぶ抗てんかん治療薬を、組み合わせます。ビデオ同時モニタリング（脳波検査）、CTやMRI、血液検査などから、てんかん専門医が鑑別診断をします。脳外科治療や食事療法なども、行われています。

こうした適切な医療により、70%を超える人がてんかん発作を克服できています。慢性の脳疾患の中では、てんかんは比較的予後の良い病気です（薬とは長く付き合いますが）。

東京都では、国立精神・神経医療研究センターを（小平市）中心に、都内でてんかん診療が完結するよう、医療体制整備を進めています。東部地区は、都立墨東病院が中心です。

江東区では、私たちも連携する「スガノ脳神経外科クリニッ

ク」が豊洲に昨年開院しました。これまでも、都立東部療育センター、藤崎病院（ともに南砂）、スマイルクリニック西大島、けいこ豊洲こどもクリニック、などで専門医療が行われてきました。てんかんの地域診療が、区内にさらに拡がることを期待しています。

てんかんのある人は、自立支援医療、精神保健福祉手帳、障害年金など、日常生活や社会参加を進めるためのサービスを使えます。これも知っておくと、良いですね。

■ひとりの人として接してください

家庭では、発作に対する不安から過保護になり、学校や職場でも、危険防止を考え過度に行動制限をしがちです。

こうしたことは、てんかんのある人の発達や人格に影響します。また、てんかん発作の症状に加え、身体や精神面での障害を伴う人もいます。こうした人が、地域でハンディキャップ抱えながら人として自立できるように、皆さんが理解し支えることが大切です。

てんかんのある本人には、自分で病気や発作症状を正しく理解し、それを信頼できる周囲の人に伝えることを勧めています。信頼こそが、一番の治療と支援に繋がると私は信じます。

自分の友人・知人にたまたまてんかん発作の症状があった、と理解し「発作がおこってもいい職場、地域」を目指してください。発作は、短時間です。24時間のほとんどは元気に過ごしています。特に、てんかんがあるというだけで活動制限は必要ありません。

■具体的な対処方法

発作がおきた時は、とにかく焦らず、どんな様子か観察しましょう。いつもと同じであれば、回復後に本人に伝えてください。倒れるような場合は、安全な場所で顔を横に向けて気道を確保しましょう。10分以上続き意識が回復しない場合は、救急車を呼びましょう。

発作は、いつどこでおこるかわかりません。薬の飲み忘れや睡眠不足が、要注意です。過度のストレス、リラックス状態も、注意です。悪天候、寝入りばな、起床前、月経前など、個人の特性もあります。

■誰でも参加できる市民運動です

1973年に「親の会」と「守る会」が活動を始め、この二つが統合して、1976年に日本てんかん協会（波の会）が設立しました。てんかんに関するあらゆる活動（医療行為を除く）を全国で展開中です。てんかんのある人と家族、専門医や専門職、関心のある人は誰でも参加できます。

10月の「てんかんを正しく理解する月間（てんかん月間）」、2月第2月曜日の「世界てんかんの日（IED）」に、ぜひご参加ください。

毎週月・水・金曜日の「てんかん相談ダイヤル」は、無料です。

てんかんのことを知りたい、悩んでいたら、お気軽にご連絡ください。ホームページも覗いてみてください。

公益社団法人 日本てんかん協会（波の会） 豊島区南大塚 3-43-11 福祉財団ビル 7F

TEL.3202-5661 FAX.3202-7235 <https://www.jea-net.jp>